

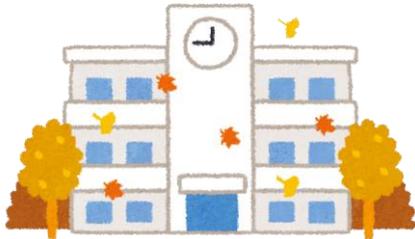
# Catch the WAVES!

新潟県立佐渡中等教育学校

学校だより 令和5年度 10月号

HP: <http://www.sado-ss.nein.ed.jp>

## 校長先生 終始業式 講話 令和5年10月3日



皆さん、こんにちは。猛暑、酷暑の残暑もようやく落ち着き、本来の秋らしさを感じられる季節となりましたね。先週末30日のわくわく体験入学には、大勢の小6生・保護者の皆さんが来校されました。生徒会役員・学年委員の皆さんからの見応えある学校紹介、部活動体験等を通じて佐渡中等の魅力と特色を体感していただきました。皆さんの後輩として入学していただけることを願っています。

さあ、1学期はどうでしたか。全校生徒一人一人の成績や出席状況を確認するとクラス内で切磋琢磨し高め合う姿が見えました。一方、努力を要する人もいました。振り返り、次回の奮起を期待します。それでもよく頑張ったなあという点もいくつかあったと思います。小さなことでも結構、小さな喜び、小さな幸せを感じていきましょう。その積み重ねが自信となっていきます。また、課題もあったはず。一人一人様々だと思いますが「よし、修正していこう」と思う決意、意思が大切です。そして、努力を継続していくこと。「継続は力なり」だとつくづく感じます。三日坊主でも三日続けばまずは立派！今日から2学期、自分を成長させる後半戦としていきましょう。

終始業式にあたり、実りの秋、学習の秋をテーマに、過去2年間、話をしてきました。一昨年度は、「プラトー現象」、別名、高原現象、学習や部活動等も続けても成長が停滞する現象のこと、誰にでも起こるので落ち込まず諦めないこと（ただし努力を継続していることが条件！）、成長の踊り場・横ばい状態、スランプとの違い、練習・学習の工夫、距離を置く等の対策が必要、という話をしました。



昨年度は、①「生活実態調査」を踏まえ、スマホ使用時間、学習時間、睡眠時間との相関性から、今日から変える、今日から変わる生活改善、②茂木健一郎著『脳を活かす勉強法』から効率的な学習方法、③レジリエンス(resilience)：逆境力、折れない心の鍛え方、という3つの話をしました。覚えていますか？興味のある人は本校HPの「学校案内⇒校長室⇒校長からのメッセージ」を参照してください。

さて今年度は…と思い巡らせ、本日は学習以前に、人として人間性豊かに思いやりをもって他者を理解できる人になってほしいと願い、「多様性とマイノリティ」について話をします。

私の教員としてのモットーは、金子みすゞさんの詩『私と小鳥と鈴と』の一節「みんなちがってみんないい」です。学級担任の頃はこの詩を教室に掲示して、生徒とともに語り合ったものです。時代がどう変わっていても、私にとって変わらないもの、「不易と流行」の不易の部分です。自分の信念に揺るぎがないか、日々自問自答するようにしています。

この詩の内容を大まかに言うと「みんなそれぞれ特徴に違いはあるけれど、みんなそれぞれありのままがいい、あなたらしくあなたはあなたのままでいい、十人十色、特別なONLY ONE…」といったような内容ではないかと思います。

しかし、「みんなちがってみんないい」とは言うものの、実際には他人と違うことや多様性がなかなか認められず、結局、人と違うところを持つ人が生きづらさ、困り感を感じてしまうといった現状を目の当たりにすることがよくあります。

そして、そんな場面を見る度に、誰もが、どんな人でも「みんなちがってみんないい」と本当に実感できる学校、社会を作っていきたいものだなあと考えています。

「多様性」(diversity ダイバシティ)、よく使われる言葉ですが、言い換えると「反差別」、差別せず偏見をなくすこと、とも言えるのではないかと考えます。

多様性の問題は、「minority マイノリティ」(少数派)の人にとってはありがたいことではあります。実はマイノリティの問題ではないと考えます。つまり多様性というのは、「majority マジヨリティ」(大多数)側の問題だと考えます。差別される側ではなく、差別する側の問題ではないでしょうか。



世の中には様々な差別があります。性別、人種、民族、国籍、年齢、障害の有無、持病、出自、価値観、宗教、学歴、嗜好（しこう：好み）、容姿（ルッキズム）、そして性的マイノリティ（LGBTQ、SOGI=Lesbian レズビアン（女性同性愛者）、Gay ゲイ（男性同性愛者）、Bisexual バイセクシャル（両性愛者）、Transgender トランスジェンダー（その性別に囚われない）、Questioning/Queer クエスチョニング/クィア：性のあり方を決めたくない、SOGI（Sexual Orientation and Gender Identity セクシュアル・オリエンテーション&ジェンダー・アイデンティティ）：性的指向/性自認）等。（あえて言えば、男のくせに…、女性ならではの…、そんな〇〇に興味あるの、障害や容姿、出自等への差別、嘲笑、誹謗中傷等）



身近な例で言うと、美輪明宏さん（俳優・歌手）、IKKOさん（美容家）、マツコ・デラックスさん（タレント）等がたくさんテレビに出ることによって、言い換えれば LGBTQ+の人たちがメディアを通じて可視化されることで、多様性が促進される面はあると思います。歌声や言葉の力、立ち居振る舞い等の芸術的センスが素晴らしいなあと感じます。一昔前は、侮蔑的な言葉で揶揄された方々も多く、テレビに出ることも難しかった時代でした。時代も変わり、寛容になりましたが、「多様性はいいね」と思っている人が、自分の身内にそのような人がいるとなったときに同じ反応ができるか、というところやはり懐疑的になってしまいます。他人事だからこそ、「マツコさんはいいよね」という評価ができるし、多様な社会になってほしいという話ができると思うのかもしれませんが、実際に自分の身内がそうだとしたときに泰然と構えられるかというと、そういう人はまだ少ないのではないのでしょうか。そうであっても泰然と受け入れられる自覚を持ちたいものです。

つまり、差別の問題を自分事として考えられるかどうかということです。「差別」とはその当人を突き刺す言葉で、だからこそトゲトゲしてしましますが、「多様性」という言葉に置き換えると、どこか他人事で済んでしまう感じがします。



LGBTQ+に限らず、先程の事例にあるような立場、言い換えれば大多数（マジョリティ）あるいは同調圧力で、少数派（マイノリティ）に対して「自分（たち）とは違うこと」で、ついはいじめたり、拒絶したり、排除したりしていませんか。先程の差別事例をひとつくりににはできませんが、その人の特性、個性、持ち味として寛容に寛大に、受け止め受け入れ、心情に寄り添う姿勢が大切であると考えます。

他者との違い、多様性を受け入れるのに必要なことは「自己理解と他者理解」であると考えます。口で言うのは簡単ですが、実際にはやはりなかなか自分の価値観と違う人を受け入れるのは難しいことが多いです。よく「他人を思いやりましょう」とか「他者理解を深めましょう」と言いますが、その前にまずは日々自分と向き合い、「自分とは何か」とか「自己理解」等、自分を知ることが必要だと考えます。何故なら、自分のことを理解せずに他者への理解を深めるのは困難だからです。もっと視野を広げて言えば、日本を知ること、そして他国、異文化を知ること、観ること、学ぶことにより、自分のちっぽけさや日本の置かれた現状、多様性への寛容さやマイノリティへの配慮等を再認識することができるのではないのでしょうか。秋の夜長、まずは、自分と向き合う時間も大切にしてください。

皆さんが安全安心な毎日を送るために、学校という現場において切に感じるのは、教科指導を通じた日ごろの授業やHR活動、学校行事等の根底には、先生方による道徳的観点、生徒理解、教育相談、特別支援教育的な支援が必要だと感じています。その点では、先生方には全校生徒皆さんに対してきめ細やかな対応を願っていますが、どの先生方も日々研鑽を積みながら指導に当たってくださっている点、また一人一人に目が行き届くという点も本校の強みであると思っています。

お互いの違いを認め合い、拒絶や排除せず、受け入れ、寄り添い、関わろうとしていく姿勢が大切です。多様性の尊重、個性を認め合うことは、いじめや差別、人権侵害、さらには国際紛争である戦争抑止にも繋がる大切な考え方ではないかと考えます。他人との違い、多様性を自然に認め合えるような人が増えていってほしいですし、「みんなちがってみんないい」といった多様性に寛容な社会になっていけるように、私も含め、自分のできることを続けていきましょう。



今日は、人として思いやりをもって他者を理解できる人になってほしいと願い、「多様性とマイノリティ」について、お話をしました。特に日ごろのクラス内、学校生活の様々な場面で、まずはいじめや相手が嫌な思いを生まないよう相手を思いやる言動ができること、時には衝突する場面もあって結構、しかし修復、改善するにはどうすればよいか考えることに努め、他者（仲間）も自己（自分）も理解し大切にしてほしいと願っています。

年度末に向けての後半戦、クラス・学年・学校の和、絆がさらに深まるよう期待しています。

